

田尻歴史館  
「愛らんどハウス」  
(大阪府泉南郡田尻町)

31

ザ・見遊じあむ

大正時代の美しい洋館の姿を  
現在も残す田尻歴史館



社長の別邸として、氏の郷土である大阪府泉南郡の田尻町に建てられた、大阪府指定有形文化財です。敷地内には洋館、和館、土蔵、茶室が配置されています。いずれも建築学的に注目される近代建築のひとつです。田尻町の発展のシンボルである紡績工場を見晴らしていた洋館は、現在も昔と同じ

かつての紡績王の洋館を開放

南海本線の吉見ノ里駅から北に約400メートルほど行くと、明治・大正時代にタイムスリップしたかのような洋館に出会います。門柱には「田尻歴史館」の看板がありました。この洋館は明治から大正にかけて「綿の王」と呼ばれ、関西繊維業界の中核を担った谷口房蔵・大阪合同紡績(株)元

と伝統的な和館が見事に調和しています。特にインテリアでは、いたる所に使われているステンドグラスが必見です。

館内では各種の催しやレストランもあります。ステンドグラスの窓にさりげなく置かれたランプには、価値100万円の価格が付いているなど、驚かされます。休日のひととき、この館でゆったりとした気分を過ごすのもいいものです。

ミュージアムメモ

▶所在地/〒598-0092 泉南郡田尻町大字吉見1101-1 交通/南海本線「吉見の里駅」から徒歩10分  
▶問い合わせ/☎072-465-0045  
▶開館時間/午前9時~午後6時(入館は午後5時30分まで) ▶休館日/水曜日・12月29日~12月31日  
▶見学は無料ですが貸館、イベントにより見学できない場合もありますので事前にご確認ください。

たま  
「うた魂」



高校の合唱部を舞台に  
合唱のさわやかさ満喫

この10年ぐらいの日本映画は、水泳、野球、プロレス、相撲、ジャズバンド、ボート、卓球、駅伝と、趣味やスポーツなどひとつのジャンルを舞台にした友情と葛藤、サクセスをドラマにした映画がおおはやりです。この映画もそうした1本です。合唱部に所属する女子高生が合唱を通して友情をはぐくみ、自らにとって大切なものに気付いていく青春賛歌映画の定番。女子高生のかすみは自分のことが大好き。しかし、秘かに思いを寄せる男子が撮ってくれた、大口を開けて歌う自分の写真を見てがく然とします。その日以来、すっかり自信喪失してしまったかすみで

したが、ライバル校のヤンキー合唱部の情熱と魂の込められた合唱をきっかけに自分を取り戻していきます。ラストの合唱コンクールのシーンは、さながらライブに参加しているような感覚です。気持ちの伝わり感、感情のある歌声が心にしみこんでくる映画です。ありきたりな場面設定、オーバーな演技ぶり、映画の出だしはうんといい感じですが、「一生懸命になれることがあるって、すごいね」のセリフが生きています。尾崎豊の曲など、映画の中で歌われる合唱曲に思わず聞きほれてしまいます。映画「天然コケッコー」の夏帆が、自分がかわいくて歌がうまいと思っ

がうまいと思っという自意識過剰の女子高生役をコミカルに演じています。ライバル校のヤンキー合唱部の部長を、ガレッジセールのゴリがガクラン姿で熱演。歌うことにより人間の成長と複数で歌うことのすばらしさを描いた映画です。上映時間は120分。



大阪の戦跡を歩く

第30歩

日露戦没記念碑  
と忠魂碑

(松原市)



1904年(明治37)から5年にかけて行われた日露戦争は日本にとっては日清戦争にくらべて戦死者の数を激増させた戦争でした。国内には10万世帯を超える戦没者の遺族が出現したといわれています。このため、全国各地で戦没者のための慰霊施設の建設がにわかにさかんとりました。戦没者を郷土の誇りとする宣伝や靖国神社への合祀に呼応して各地の護国神社へ

の合祀、さらに、民間の有志によって招魂社がつくられ、神社、寺院の境内や公園、学校等に招魂碑、忠魂碑、弔魂碑などがぞくぞくと建てられていきました。大阪府下にも多くの碑が残っています。松原市の阿保地域には日露戦役記念碑と忠魂碑のふたつが並んでいます。日露戦役記念碑は当時の松原村から出征した人の名前が、忠魂碑には戦死した人の名前が刻まれています。

撰津

河内 和泉 おおさか 三國誌

31

(大阪府泉南郡 熊取町)

大阪が生んだ蘭学者  
橋本宗吉と電気実験

橋本宗吉は大阪が生んだ江戸時代の蘭学者です。1763年(宝暦13年)北堀江に生まれました。代々の家は阿波の郷土の家柄でしたが、父の代に大阪へ移住してからは貧窮の状態で、宗吉は傘の紋様を描いてようやく暮らしを立てていたといわれています。やがて医家の小石元俊や天文学者の間重富などから学資を得て、28歳のとき、江戸へ上って大槻玄沢の門下生となりました。もちまへの勉強ぶりを発揮してたちまちオランダ語を習得し、玄沢門下の四天王に数えられました。その勉学ぶりはわずか4ヶ月で4万語のオランダ語を習得したといわれています。大阪に帰ってからは医業を開くかわら「絲漢堂(しかんどう)」を起し、蘭学を教えました。



熊取町の中家の住宅内に、橋本宗吉電気実験の再現人形があります

た。弟子に中天游(なかてんゆう)がおり、さらに緒方洪庵から福沢諭吉へと続いています。宗吉の業績で忘れてはならないのはエレキテル(電気)の研究です。泉南の熊取町に中家という豪農がいました。今も当時の中家の住宅が重要文化財として保存されています。宗吉はこの家の松の木を利用して、アメリカのフランクリンが雷を使って雷が電気であることを確かめた実験を、この場所で行っています。その実験の様子は、日本初の学術的電気実験を元に著した『阿蘭陀始制エレキテル究理原由』(泉州・熊取谷にて天の火をとりたる図説)に記されています。主な著書には、最初に西洋医学を体系的に紹介して高い評価を得た『蘭科内外三法方典』があります。1836年(天保7年)5月1日死去。享年74歳。墓は大阪府中央区上本町4丁目念仏寺にあります。また、中央区南船場3丁目「絲漢堂(しかんどう)」跡の石碑があります。

いまも心に響く  
名詩・名歌・名語録

菜の花や 月は東に 日は西に  
与謝 蕪村

めぐり逢いて  
見しやそれともわかぬまに  
雲隠れにし夜半の月かな  
紫 式部  
(久しぶりに逢ったあなたなのに、ろくにお話しする時間もなしにすぐに別れてしまうなんて。まるで、明るいお月さまがあつと言う間に雲に隠れてしまうようで残念だわ)。『源氏物語』の作者として著名な紫式部(むらさきしきぶ、生没年不明、1008年に30歳ぐらいといわれています)は、平安時代中期の女性作家、歌人。源氏物語の作者として有名です。三十六歌仙の一人。標題の和歌は「小倉百人一首」にも入っています。藤原北家の出身で、女房名は「藤式部」。「紫」の称は「源氏物語」の作中人物「紫の上」に、「式部」は父が式部大丞だったことに由来しています。今年が『源氏物語』誕生1000年。